大正時代から現代まで、佐賀県洋画壇の中心として活躍した洋画家・武藤辰平（一八九四―一九六五）の画業を振り返ります。

武藤は一八九四（明治二十七）年、佐賀市材木町に生まれ、東京美術学校にて洋画を学び、岡田三郎助らとともに「佐賀美術協会」の創設に参加、以後、その展覧会（佐賀美術協会展）に出品を続けます。一九三一（昭和六）年より単身フランスに留学、ミレーやルドン、セザンヌ等の作品を模写しながら、かの地の明るくやわらかな色彩感覚を身につけました。帰国後、佐賀美術協会展への出品とともに、一九四七（昭和二十二）年「泰西名画模写展覧会」を佐賀市でひらくなど、郷土の美術振興と後進の育成に力を注ぎました。

本展覧会では油彩画、パステル画等を中心に、画業の初期からフランス留学期の代表作をはじめ、西洋絵画の模写等計六十点を展示します。

武藤辰平 —フランスの風—

文化庁「地域文化芸術振興プラン推進事業」

主催／文化庁
「佐賀県地域文化芸術振興プラン」実行委員会
「武藤辰平 —フランスの風—」実行委員会
（佐賀県立美術館・佐賀美術協会・佐賀新聞社）

会期／平成21年11月19日(木)～12月23日(水・祝)
休館日：毎週月曜日 ※11月23日(月・祝)開館、翌24日(火)休館

会場／佐賀県立美術館 2号展示室

佐賀県立美術館
〒840-0041 佐賀市城内1-15-23 TEL.0952-24-3947
http://www.pref.saga.lg.jp/web/museum.html E-mail hakubutsukan-bijutsukan@pref.saga.lg.jp

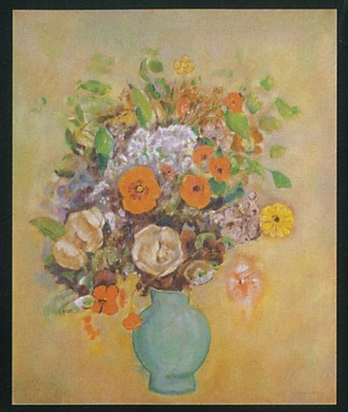
ルーブル美術館にて 1933（昭和8）年

武藤辰平 1894-1965（明治27－昭和40）

1894（明治27） 佐賀市材木町に生まれる。
佐賀中学校に進学、青木繁、坂本繁二郎の師であった森三美に洋画の手ほどきを受ける。
1913（大正2） 久米桂一郎、岡田三郎助らとともに佐賀美術協会設立に参加。翌年の第1回佐賀美術協会展に出品、以降出品を続ける。
1915（大正4） 東京美術学校西洋学科に入学。
1916（大正5） 第10回文展に《港の雨》で初入選をはたす。
1931（昭和6） フランスに渡る。ルーブル美術館に通いミレー、ルドン、セザンヌ等大家の作品を模写し学ぶ。
1932（昭和7） サロン・ドートンヌに入選。
1934（昭和9） 帰国。渡欧作品展を東京、福岡市、佐賀市で開催する。
1936（昭和11） 新文展無鑑査となる。
1947（昭和22） 佐賀美術協会の主催により「泰西名画模写展」が佐賀市公会堂で開催される。
1951（昭和26） 第1回佐賀県展の審査員となる。
1958（昭和33） 佐賀美術協会の副会長に就任する。
1960（昭和36） この頃より阿蘇、蔵王等にしばしば写生旅行に出かける。
1965（昭和40） 5月9日、佐賀市で逝去。

武藤辰平 ―フランスの風― 出品作品から（解説 武藤良平氏）

パリの裏通り 1931-34（昭和6-9） 佐賀県立佐賀東高等学校蔵
古い町並み、左奥に尖塔がかすかに見え、正面から右奥へと伸びる道はなだらかな上り坂になっています。平面的な建物の外壁と地形の遠近感がうまくミックスされた作品です。



花（ルドン作品模写） 1932（昭和7） 佐賀県立美術館蔵
ルドンのパステル画の模写です。小さく不安定そうに見える花瓶に活けられた花々が画面いっぱいに描かれています。それらは華麗で神秘的な美しさをたたえています。きわめて美しい作品です。

てんいてん

水辺 制作年不詳 佐賀県立美術館蔵
昭和30年ぐらいまで、有明海の干満差を利用した「棚じぶ漁」が、佐賀のいたる所で行われていました。この絵は佐賀市、今宿の佐賀江川付近での棚じぶ漁を、田舎の長閑な風景画として描いたものです。

渓流 1919（大正8） 佐賀県立美術館蔵
第一回帝国美術院美術展覧会への出品作です。辰平20代の作品で、場所は川上峡の渓流を描いたものと思われます。留学前の作品で全体的に暗い色調で描かれています。

自画像 1920（大正9） 東京藝術大学大学美術館蔵
東京藝大西洋画科では、明治31年から卒業生の自画像を買い上げています。これは現在も継続されていて、今まで二千点以上が買い上げられました。今回、佐賀県で初めての公開となります。

睡蓮（モネ作品模写） 1931-34（昭和6-9） 佐賀県立美術館蔵
モネは生涯200点以上の睡蓮を描きました。辰平が模写したモネの睡蓮は比較的初期の作品で、後年ほど大胆な色使いは見られません。辰平も睡蓮の魅力にとりつかれ多く描きました。

裸婦 1931（昭和6） 武藤文庫蔵
辰平の作品で人物画は少なく、さらに裸婦はきわめて少数です。かつて辰平は美校の恩師岡田三郎助の作品「花野」を所有していました。戦時中は空襲警報が出ると、その絵を防空壕まで運んでいたそうです。

虹 1933（昭和8） 佐賀県立美術館蔵
辰平が描いた絵で最大級の大きさです。辰平の代表作の一つで、これまで展覧会ポスター、パンフレットにも取り上げられました。二本の虹はミレーの「春」を模しています。

雲 1942（昭和17）頃 武藤文庫蔵
松花江（ハルビン）沿いの風景。入道雲がもくもくとして、今にも雨が降りそうな雲行きです。ハルビンは辰平の佐賀中学校時代の同級、井原潤次郎氏（陸軍中将）が当時駐屯しており、数回訪ねています。

春（ミレー作品模写） 1933（昭和8） 武藤文庫蔵
パリ郊外、フォンテーヌブローの森を描いたミレー晩年の作の模写です。辰平によれば、ルーブル美術館は元宮殿であったためか、展示室内の採光が悪く、2年がかりで模写したとのことでした。また、額縁も実物そっくりにパリで誂えたものです。

カルタ取り（セザンヌ作品模写） 1931-34（昭和6-9） 武藤文庫蔵
セザンヌが生涯過ごした南フランスのプロバンスで、近くの農夫をモデルに描いた作品です。中央の瓶を軸として、対称に配置された二人の男。勝負に熱中する緊張感が伝わってきます。